

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 4年 2月 1日

公表:令和 4年 2月 24日

事業所名 就労準備型放課後等デイサービス ぽこあぼこ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0	・利用定員に対し、必要以上のスペースを確保している。	・人数が多いと活動が制限されることがある為、活動を分散したり、都度皆で話し合い、共有スペースをどのように分割するか相談している。
	2 職員の配置数は適切である	5	0	・人員基準を満たしている。且つ、本社スタッフも支援に参加し交流する機会がある。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	0	・危険がないか、都度職員と共有している。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0	・自己評価表を作成し、定期的に面談を行い、業務改善に努めている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	・アンケートや、頂いたご意見は常に共有し、改善に努めている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	・ホームページにて公開する。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	5		・第三者評価は実施していない。児童さんや保護者の皆様から頂いた声を貴重なご意見として改善できる様努めている。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	・外部研修・職員ミーティング、勉強会等参加している。	・Zoomでの研修等にも積極的に参加した。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	・全職員でアセスメントを行い、支援にズレのないよう共有している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	4		・持参された場合は使用し、参考にしている。お持ちでない場合はぽこあぼこで聞き取りを行い、独自のアセスメント表に書き込みをしている。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	・様々なアイデアが出る様、全職員が立案している。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	・様々な活動の中で、ニーズに合ったものを提供出来る様、試行錯誤している。	・就労訓練も定着し活動の幅が広がった。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5	0	・児童の様子をみて、プログラムの立案・修正を行っている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	0	・児童の現状を踏まえたうえで、計画を作成している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	・支援にズレが無いよう打ち合わせは欠かず行っている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	・送迎後の報告は必ず行う。時間の都合上出来なかった場合は翌日必ず行っている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	・毎日記録をし、定期的に振り返りを行っている。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	0	・目標設定にズレが無いよう、必ず全職員で行っている。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5	0	・職員で修正・改善しながら支援に臨んでいる。		

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	・大久保、橋本が主に参加し、終了後は共有を行っている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	0	・ミスが無いように努めている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	5		・対象児童の受け入れは現在なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	0	・保護者の皆様から頂く資料を参考にしている。	・必要性があれば相談支援や各機関と連携をとる。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	0	・要請があれば、保護者の方に連絡を取り、情報提供を行う。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	5		・実施できていない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	5		・保護者の中に希望されない方もいる為、積極的には行っていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	5		・現在、参加はしていない。機会があれば積極的に参加し、連携をとる。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	5	0	・主に連絡帳にてやり取りを行う。電話連絡やメール・面談も必要に応じて行っている。	
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	1	・相談しやすい雰囲気づくりを心掛ける。	・他事業所のペアトレ研修に参加させてもらっている。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	・直接説明を行い、質問等に対応する。	・分かりやすい説明を心掛ける。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	・連絡帳では不足と感じた場合は電話連絡を行う。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	0		・12月に第一回目の懇親会を2日に分けて開催した。半年に一度のペースで今後も実施予定である。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	・窓口を設けている。 ・些細なことでも連絡して頂けるよう雰囲気づくりに努める。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	・手紙やブログ、行事予定を配布している。	・必要に応じて、紙媒体もしくはインターネット、LINE等で発信している。
	35	個人情報に十分注意している	5	0	・鍵付きロッカーに厳重に管理している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	・掲示物にはフリガナをつけたり、必要に応じて個別に対応している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	0	・地域の清掃活動に参加している。【職員のみ】	・地域との交流については、時勢をふまえて検討していく予定。 ・地域のもちつき行事にもお手伝い参加した。【職員のみ】

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	0	5	・職員間の共有は研修を通して行っている。	・周知の徹底は出来ていない。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0	・避難訓練を定期的に行っている。 ・防災センターに行く。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	・虐待防止研修を行う。 ・マニュアルは作成し、職員間で共有している。	・本社職員ともケースを持ち寄り研修を重ねている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	0	・どのような時に身体拘束を行うのかの説明はしている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	0	・アレルギー有無の把握を徹底している。	・対象児童の受け入れは現在なし。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	・都度、記録し改善案を立て、再発防止に心掛けている。	